

中央大学理工学部 正会員 春日屋 伸昌

水中に投下された竿浮子は動水圧を受けて加速され、一定の速度 v_f になるとすれば、縦平均流速 v_m の v_f に対する比 λ を浮子の補正係数といい、この間に浮子が流下する距離 L_a を漸近流下距離という。

浮子の吃水比(水中の長さの水深 h に対する比)を n 、垂直流速曲線 $v=f(z)$ 上で v_f に等しい流速を有する点の深さの水深に対する比を m とすれば、動水圧は速度差の2乗に比例するから、浮子の直径 d が全長にわたって一様で、浮子が一定の速度 v_f に達してのちには次の式が成り立つ。

$$\int_0^{mh} (v - v_f)^2 dz = \int_{mh}^{nh} (v_f - v)^2 dz \quad (1)$$

垂直流速曲線の方程式としては筆者の誘導した次の式を用いる。

$$v = (v_m/p) \{ p h + 2\alpha(z/h) - (z/h)^2 \} \quad [p = (1-3\alpha)/3(h-1)] \quad (2)$$

h : 表面流速÷平均流速, α : 流速が最大の点の深さの水深に対する比

(1)式に(2)式を入れれば(v_f は(2)式の z/h を m とおいた値), α , n をパラメーターとする m の4次方程式が得られる。ここで、 $\alpha = 0.2$ とおけば(この値は α の度数分布のモード),

$$m = 0.076 + 0.58n \quad [0.60 \leq n \leq 0.95] \quad (3)$$

が導かれ、(3)式を(2)式に入れ、 $\alpha = 0.2$, $h = 1.1$ (h の度数分布のモード)とおいて、 λ と n との関係をFrancis型と同じ型にまとめると次の結果が得られる。

$$\lambda = 1.053 - 0.214\sqrt{1-n} \quad [0.60 \leq n \leq 0.95] \quad (4)$$

漸近流下距離を求めるには、これを2段階に分けて考える。第1段階は浮子の全長にわたって正の動水圧が加わる場合であり、第2段階は浮子の上部に正の動水圧、下部に負の動水圧が加わる場合である。前者に対する流下距離を $L_{a,1}$ 、後者に対するそれを $L_{a,2}$ とする。

第1段階: 浮子が投下された点を流下距離 x の原点にとり、時間を t 、水の単位容積重量を w_0 、円柱形浮子の抵抗係数を C_0 、重力の加速度を g とすれば、次の運動方程式がたてられる(浮子の重量が浮力に等しいことを考慮すると浮子の全長と浮子の単位容積重量は含まれない)。

$$\frac{\pi d^3 n h w_0}{g} \frac{d^2 x}{dt^2} = \frac{C_0 d w_0}{2g} \int_0^{mh} \left(v - \frac{dx}{dt} \right)^2 dz \quad (5)$$

(5)式に(2)式を入れ、初期条件 $t=0$, $dx/dt=0$ のもとで(5)式を解くと、

$$\frac{dx}{dt} = \frac{A^2 v_m}{\sqrt{A^2 - B^2}} \frac{1}{\cot Ct + (B/\sqrt{A^2 - B^2})} \quad (6)$$

$$A^2 \equiv h^2 + (1/p^2) \{ 2\alpha p h - (2/3)(p h - 2\alpha^2)n - \alpha n^2 + (1/5)n^3 \} n$$

$$B^2 \equiv h + (1/p) \{ \alpha - (1/3)n \} n, \quad C \equiv C_0 \sqrt{A^2 - B^2} v_m / 2\pi d$$

$$\text{なお, } A^2 - B^2 = (n^2/3p^2) \{ \{ \alpha - (n/2) \}^2 + (n^2/60) \} > 0.$$

浮子の速度が深さ nh の点の流速 v_h [v_h は(2)式の z/h を n とおいて得られる]と等しくなるまでの時間を $T_{a,1}$ とすれば、(6)式の左辺を v_h とおき(6)式を t について解いて、

$$C T_{a,1} = \cot^{-1} \frac{A^2 (U_m/U_n) - B}{\sqrt{A^2 - B^2}} \quad (7)$$

さらに、(6)式を積分して初期条件 $t=0$, $x=0$ を考慮すると、

$$\frac{x}{d} = \frac{U_m}{C d} \left\{ B C t - \sqrt{A^2 - B^2} \ln \left(\frac{B}{\sqrt{A^2 - B^2}} \sin C t + \cos C t \right) \right\} \quad (8)$$

したがって、第1段階の流下距離 $L_{a,1}$ は(8)式の t に(7)式の $T_{a,1}$ を入れて、

$$\frac{L_{a,1}}{d} = \frac{2\pi}{C d} \left\{ \frac{B}{\sqrt{A^2 - B^2}} \cot^{-1} \frac{A^2 (U_m/U_n) - B}{\sqrt{A^2 - B^2}} - \ln \frac{A^2 (U_m/U_n) - B (A^2 - 1)}{A \sqrt{A^2 (U_m/U_n)^2 - 2 B (U_m/U_n) + 1}} \right\} \quad (9)$$

$\alpha=0.2$, $k=1.1$, $C_0=1.2$ とおくとき、 n の様々な値に対する $L_{a,1}/d$ の値は右の表のとおりである。

n	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0
$L_{a,1}/d$	32.55	18.87	13.44	8.74	3.93

第2段階：浮子の速度が u になってから一定の速度 u になるまでの間の任意の時刻 t における浮子の速度を u とする。 u は深さ r の点($m \leq r \leq n$)における流速に等しく、したがって、浮子に働く動水圧は $0 \leq r < r_k$ の範囲で正、 $r_k < r \leq n$ の範囲で負である。そこで、運動方程式は、

$$\frac{\pi d^3 n k u_0}{g} \frac{d^2 x}{dt^2} = \frac{C_0 d u_0}{2g} \left\{ \int_0^{r_k} \left(u - \frac{dx}{dt} \right)^2 dz - \int_{r_k}^{n k} \left(\frac{dx}{dt} - u \right)^2 dz \right\} \quad (10)$$

さて、 $u = (U_m/p)(p k + 2\alpha r - r^2)$ であるから、

$$\frac{d^2 x}{dt^2} = \frac{dv_r}{dt} = \frac{dv_r}{dr} \frac{dr}{dt} = \frac{2U_m}{p} (\alpha - r) \frac{dr}{dt} \quad (11)$$

(11)式を(10)式に入れ、 $dx/dt = v_r = (U_m/p)(p k + 2\alpha r - r^2)$ とおくと、

$$dt = \frac{-(\pi d/C_0 U_m) 60 n p (r - \alpha) dr}{16 r^5 - 5(3n + 10\alpha) r^4 + 20\alpha(3n + 2\alpha) r^3 + 10n(n^2 - 3\alpha n - 6\alpha^2) r^2 - 20\alpha n^2(n - 3\alpha) r - (3n^2 - 15\alpha n + 20\alpha^2) n^3} \quad (12)$$

ところで、 $dx = v_r dt = (U_m/p)(p k + 2\alpha r - r^2) dt$ であるから、この右辺に(12)式を入れ、 x については0から $L_{a,2}$ まで、 r については n から m まで積分する。すなわち、

$$\frac{L_{a,2}}{d} = \frac{\pi}{C_0} \int_m^n \Phi(r) dr \quad (13)$$

$$\Phi(r) = \frac{60 n (r - \alpha) (p k + 2\alpha r - r^2)}{16 r^5 - 5(3n + 10\alpha) r^4 + 20\alpha(3n + 2\alpha) r^3 + 10n(n^2 - 3\alpha n - 6\alpha^2) r^2 - 20\alpha n^2(n - 3\alpha) r - (3n^2 - 15\alpha n + 20\alpha^2) n^3} \quad (14)$$

$\alpha=0.2$, $k=1.1$, $C_0=1.2$ とおくとき、 n の様々な値に対する $L_{a,2}/d$ の値を数値積分すると右の表のようになる。求める漸近流下距離 L_a は $L_a = L_{a,1} + L_{a,2}$ より右の表のように求められる。そこで、 L_a/d を n のべき関数で表わすと次のようになる。

n	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0
$L_{a,2}/d$	288.66	218.16	164.07	125.59	100.66
n	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0
L_a/d	321.21	237.03	177.51	134.33	104.59

$$L_a/d = 108.73 n^{-2.1287} \quad (15)$$

すなわち、漸近流下距離は吃水比が大きいほど短く、吃水比が一定ならば浮子の直径に比例する。